

第2学年 美術科学習指導案

日時：平成28年7月7日（木）6校時

場所：第2美術室

学級：2年B組（男子17名 女子17名 計34名）

指導者：吉田 小野花

1 題材名 心の形 ～光のアートを通して～

2 題材について

(1) 教材観

この題材は、学習指導要領の「A表現（1）イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、協調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること（3）イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現すること」に関連する内容である。

制作過程としては、生徒が自分で発想したテーマを粘土で塑像し、抽象的表現の立体作品として表す。粘土は樹脂粘土を使用し、乾燥すると半透光性になる。それをLEDライトの光で美しく照らして作品を演出する。

抽象彫刻とライトの効果がテーマのイメージを助長することで、制作への意欲が高まると考える。また、粘土という不定型な素材を通して、フォルム、量感、動き、質感、などを感じさせながら、自分の「心の形」をより意識し制作できると考える。

日々の忙しさに追われると、誰でも目に見えることばかりに気を取られがちであるが、目に見えない心をイメージするような感じる力も生きるためにはとても大切だと感じる。それはつまり、自分の心の状態に気づくことでもあり、他者の心を感じ取ることでもあると考える。生徒たちは、大人と子供の間を揺れ動く不安定な心の時期の中で、周りからたくさんの影響を受けながらも自分自身を模索し、良い方向へ自分自身の力で進んでいかなければならない。論理力、批判力が高まるこの時期に、言葉では表現しきれない自分や他者の心の存在を感じさせる。前向きな心の成長をイメージさせながら構想し、形が不定型な粘土の形作り、磨き上げる過程を経験させることで、成長の糧になるのではないかと考える。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、1年生ではレタリングや寄木工芸などの具体的な「形」を通して自分を表現したり、生活に役立つものを提案し制作したりしてきた。どちらの作品も意欲的に取り組み、素材を生かし創意工夫に富んだ作品を制作した。

今回のこの題材では具象と抽象という概念を学習しながら、形のない「心」に焦点を当てて抽象彫刻作品を制作していく。2年B組の生徒をはじめ、久慈中学校は部活動や行事や多方面での活躍が非常に活発で、中には休みなく勉強、生徒会活動などに励んでいる生徒も少なくなく、生徒たちはとても忙しい日々を送っている。だからこそ自分自身と向き合い、前向きなイメージを深めさせることが大切だと考える。

2年生ではクラス替えが行われ、生徒同士の関係作りはまだこれからという感じはあるが、一人一人が何事にも真剣に取り組み、良いものを作ろうとする意欲が感じられる。制作自体は個々で行うが、グループ学習で交流をすることで他者理解を深め、さらに皆で良い方向へ前進する意欲を向上させることができると考える。

(3) 指導観

具象，抽象とは何かを考えさせるところからはじめ，抽象的表現に焦点を当てていく。目に見える形にとらわれず本質を探っていき，大切なものは残し余分な形はそぎ落としていく過程で，自分自身の心を見つめるきっかけにさせたいと思う。

3時間の構想を練る時間は，具象から，または抽象から発想させ，「前向きな気持ち」を軸にアイデアスケッチに表現させたいと考える。交流を通し，自分の表現意図を伝えることで，思いを深めることができ，また，他者の考えから多様な表現を学ぶことができる。

6時間の制作時間は，新しい素材である樹脂粘土とLEDライトを生かすことを含め，自分の表現したいイメージに近づけていく。制作過程では，交流をしながら学び合い，様々な工夫が生まれることを大切にしていく。

最後に鑑賞会では，自分の表現意図と，作品を見た側のイメージの一致や違いを楽しみ，表現の面白さや美しさを共感させたい。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

「前向きな心の形」を抽象的表現で発想し，粘土と光を素材として作品に表し，抽象的表現の楽しさを味わう。

(2) 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的スキル	鑑賞の能力
具象と抽象の違いに関心を持ち，テーマを大切にしながら意欲的に作品制作に取り組んでいる。	テーマに合った抽象的表現で独創的な作品のイメージを発想し，アイデアスケッチや作品に表すことができる。	彫刻作品の基本的なスキルを身に付け，制作手順を考えながら創意工夫し美しく作品を仕上げることができる。	抽象的表現の作品を鑑賞し，楽しさや面白さを味わい，テーマを感じ取ることができる。

4 題材の指導計画 (総時数 11 時間)

- (1) 具象と抽象的表現の違いを知り，作品を鑑賞する・・・1 時間
- (2) テーマを発想し，作品の構想を練る・・・3 時間
- (3) 作品を制作する・・・6 時間 (1 / 6 本時)
- (4) 友達の作品を鑑賞する・・・1 時間

5 本時の指導

(1) 目標と評価規準

目標	おおむね達成【観点】	未達成の場合の支援
テーマに合った制作手順を考えて制作をする。	① 粘土の特性を理解し，テーマに合った制作手順を考えて制作に入ることができる。 【発想構想の能力】	① アイデアスケッチの作品に合った制作手順を具体的に指導し，想像させる。

(2) 指導の構想

別紙 授業構想シート参照

(3) 展開

段階	学習内容	学習活動	教師の指導・支援 ○評価【観点】 ●UD視点
導入 10分	(2分前学習) 1 あいさつと 前時の振り返り 2 課題設定	(・モデルのクローキを する。) ・前時までの学習内容を振 り返る。 ・本時の課題を知る。	・単元を通して今までの工程 を思い出させる。
アイデアスケッチに合った制作手順を考えよう。			
展開 35分	3 制作手順と素材の特性 の説明 (5分) 4 発想 (15分) 5 制作 (15分)	・大まかな制作手順を知る。 ・素材の特性を理解する。 ・自分の作品に合った完成ま でのプロセスを想像し、ど の手順が合うか制作手順を 考える。 ・それぞれが考えた制作手順 を4人グループで交流す る。それぞれの制作手順を 知り、お互いに無理のない 手順か考えたり、アドバイ スをし合ったりする。代表 者が発表する。 ・3種類の土台から自分の作 品に合うものを選び、制作 を始める。	・画像を使い、制作手順が 分かりやすいように提示 する。 ●視覚化 ・学習シートを使い、制作 手順を考えさせる。 ・制作手順を考えられない 生徒への声掛け ① 制作手順を考えること ができる。 【発想・構想の能力】 ・個で考えた制作手順と表 現意図を交流させる。 ●共有化 ・土台と粘土を配布する。 ・芯作りと粘土の扱いを実 演する。 ●視覚化
終末 5分	6 振り返り	・振り返りカードを書く	
今日の授業について：アイデアスケッチに合った制作手順を考 えることができた 次への課題：イメージに合った作品を制作したい			
	7 次時の予告とあいさつ	・次時の内容と持ち物の確認	

(4) 板書計画

完成まで
の大まか
な流れ
(紙板
書)

学習課題 (青チョークで囲む)

写真

写真

写真

写真

写真

写真

制作する上での注意点など

まとめ (赤チョークで囲む)